

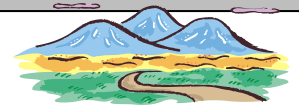
「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話転絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール ohirasanroku9jo@yahoo.co.jp

HP：太平山麓九条の会で検索



137号
2018年9月21日発行

9条改憲と一体ですめる

辺野古に基地はいらない



ジュゴン・サンゴ・海草などが生息する辺野古の海

おり、先日、米朝首脳会談において共同声明が発表されるなど緊張緩和に向けた動きが始まっています。平和を求める大きな流れの中にあっても、20年以上前に合意した辺野古の移転が、普天間飛行場問題の唯一の解決策だと言えるのでしょうか。日米両政府は現行計画を見直すべきではないでしょうか。民意を顧みず工事が進められている辺野古新基地建設については、沖縄の基地負担軽減に逆行しているばかりでなく、アジアの緊張緩和の流れにも逆行していると言わざるを得ず、全く容認できるものではありません」と「平和宣言」で述べています。さらに翁長知事は「かつて沖縄は、『万国津梁』の精神の下、アジアの国々との交易や交流を通し、平和的

共存共栄の時代を歩んできた歴史があります。そして、現在の沖縄はアジアのダイナミズムを取り込むことによつて、再び、アジアの国々を絆ぐことができる素地ができており、日本とアジアの架橋としての役割を担うことが期待されています。」と述べています。

この会の代表、宮本憲一（大阪市立大学名誉教授・滋賀大学名誉教授・経済学）氏は、辺野古に空港と軍港をかねる半永久的な基地をつくるということは、日米軍事同盟の戦争体制を進めるものであり、アジアの平和に対す

アジアの国々との架け橋になってきた歴史があります。再び沖縄が、アジアの国々との架け橋、人々の生活の場を取り戻すためにも、新基地建設は阻止しなければなりません。9月7日、「普天間辺野古問題を考える会」が、「辺野古の海への土砂投入計画並びに新基地建設計画の白紙撤回を求める」沖縄・辺野古共同声明を発表しました。



名護市辺野古新基地建設予定地

る挑戦状であり、地球環境を破壊するものである」と、発言しています。オール沖縄と私たち一人ひとりの力を寄せ合い、9条改憲と一体で進める辺野古の新基地建設に、ノーの審判を示し、新基地建設を撤回させようではありませんか。（記 大森八重子）

◆語りつぐ戦争—小金井空襲

映像と証言 DVD 空襲の記録

9月30日（日）午後1時半～3時半

栃木市栃木文化会館 大会議室

お話しは築昌子さん（当時10歳）

◆スタンディング

10月9日（火） 栃木市役所前

10月19日（金） コープ栃木店前

時間 午後4時～約30分間

第15回 とちぎ協働まつり2018

「くららエリア」でお待ちしています!

◇10月21日（日）10時～3時

◇栃木市総合運動公園・体育館

太平山麓九条の会では、平和のために常備軍は持たないと決めた国、「コスタリカ」の紹介を中心に、栃木や宇都宮の空襲の状況を展示する準備をしています。

毎回好評のダーツゲームも用意しています。

ドキュメンタリー映画

「コスタリカの奇跡」

視聴&交流会 開催

日本の憲法9条と同様、憲法に軍隊の保持を禁じる条文がある、中南米に位置するコスタリカのあゆみを紹介するドキュメンタリー映画「コスタリカの奇跡」を、多くの方に観て広めていただくことを目的に、「視聴&交流会」を、9月2日 栃木文化会館にて開催しました。
(DVDは貸出しています)



この映画の共同監督のマシュー・エディーさんは、「憲法9条はコスタリカの非武装憲法より世界に広く知られている。世界平和を実現するため、9条を積極的に発信してほしい」と語っています。

「無防備こそ最大の防御」

—映画「コスタリカの奇跡」を見て

西畑曜子 (若者とじじは平和の会・略称)

映画は、1948年の内戦終了後に軍隊を廃止、国家予算を教育や福祉、自然環境保全に使い、平和主義を推進してきた中南米コスタリカの、苦難と努力の歴史を描いたものです。理想を追求し、理念に生きようとする良き指導者と国民とが、大国や隣国の干渉にもめげず、果ては米国の麻薬による破壊工作などに立ち向かいながら、今も闘っていることに深い感動を覚えました。何より、国民が幸せになりたいという人間としての願いを忘れない限り、未来永劫この国は続くでしょう。

この映画の製作者がコスタリカ人ではなく、アメリカ人というのも、軍事大国米国が直面する問題を考えると納得でした。日本が抱える多くの課題と解決策の智慧も満載です。理想の国家を作り上げるまでの不断の努力と

おびただしい犠牲者の後ろには、文明と民主主義を愛する国民がいたのです。戦前、日本では偽政者のせいでの血が流されました。その反省から、戦後は戦争放棄の憲法9条を誕生させたはずです。

コスタリカのアリアス元大統領は言います。「無防備こそ最大の防御」と。日本国憲法制定に尽力した山本有三も「いかなる武力も侵略を食い止められない、裸より強いものはない」(戦争放棄と日本・『竹』1948年3月)と言っています。戦争放棄こそが私たちの理想です。

私たちが一人一人が理想を実現する、幸せになると強く願うなら、必ずや道は開けると思っています。一人でも多くの日本人に見てもらいたい映画です。



「9条の平和主義も、生存権も国民の願いとして憲法に盛り込まれた」

8月25日、「こどもの未来にYES!をつくらうネットワーク」主催による、NHKエグゼクティブプロデューサー塩田純さんを迎えての講演会に参加しました。

塩田純さんは、自由民権運動に力を注がれた塩田奥造さん(栃木市吹上《旧吹上村》出身)の曾孫にあたる方です。

2007年2月に放映された、E TV特集「焼け跡から生まれた憲法草案」、同年4月放送の、NHKスペシャル「日本国憲法誕生」、2017年NHKスペシャル「憲法70年“平和国家はこうして生まれた”」など、映像を紹介しながら、日本国憲法の制定過程について、

お話されました。

帝国憲法改正案特別小委員会で、GHQの草案になかった「憲法25条」の生存権の条文の追加や、憲法9条の平和主義も、保守派、進歩派を問わず、日本の新しい未来に向けて、白熱した真剣な議論があって修正が行われ、新憲法が誕生したことを知り、感動でした。なお、こうした小委員会の記録が50年間も封印されていたことには驚きです。

GHQ草案の前に、日本人が民主的な憲法草案をつくり、GHQに提出した事実も知り、素晴らしい講演会でした。

(記 大森八重子)

「地域から、足元から考える憲法と平和」
NHKプロデューサー 塩田純さんを迎えて